

buyur とは、他に兩者の相異なる名稱なるを證明すべき材料の提出せられざる間は、其の同一なるべきを認むるが當然なるべければ、若し氏の推察にして當を得たりとすれば、此の貨幣は牟羽可汗の時代には既に所謂回鶻文字が其の貨幣に於て用ゐられたるものなるを證明するものにして、余が上に述べたる所を覆すに足るべき反證と云はざる可らず、然れども牟羽と buyur との同一なるべきは、然く容易に推定し得べきことには非ず、先づ注意すべきは、Le Coq 氏の推定に従がへば、摩尼教を回鶻に輸入したる牟羽可汗が高昌に來りて、其の地に在る muzak (慕闐) に會し、摩尼教の高僧 *naXistak* の任命 (高昌に駐まるべき高僧か、或は他の地方假令ば回鶻本國の如き地方に迎ふるものなるかは明らかならず) を協議したることゝなれど、之につきては <sup>23)</sup>Chavannes, Pelliot 兩氏も既に難じたるが如く、牟羽可汗の時代には回鶻の勢力は高昌地方に及びたるものとは認む可らず、従つて此の可汗が高昌に來りてかゝる事件を處理したりとは信じ得べきことに非ず、次に又音聲の類似の上より兩者の同一を説かんとするに對しても、許す可らざる理由あり、何となれば *Kara Balgassun* の回鶻碑文のソグド文の中には、<sup>24)</sup>Müller 氏が讀破したるが如く、牟羽可汗に對しては *bu gu* = Bögu と記せり、されば唐書に之を牟羽を以て寫せるは極めて適當の譯法なりとす (ö ü 兩母音の間にある g 音の極めて輕かりしことは、今更めて云ふ迄も無きことにして、羽は此の極めて輕き g 音を前有せる ü 音を寫したるものに外ならず)、されば高昌出土の摩尼教文書中に見ゆる buyur を以て、直ちに牟羽 (Bögu) に該當せしめんとするは、理由の存せざる所なりと云はざる可らず。<sup>25)</sup>又 Alai-eddin の *Tarikh-i-Jihankushai* には、*uirur* の書に據るとして、興味ある回鶻開國の傳説を載せ、*bu gu* Khan といふものを以て其の初代の君長とせること能く知らるゝが如くなるが、此の傳説は蒙古時代に於て